

## 平成 30 年度 学校評価報告書（総表）

令和元年 6 月 3 日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属視覚特別支援学校	校長名	柿澤 敏文
幼児・児童・生徒数	171	学級数	37
2 教育目標等			
① 学校教育目標	<p>本校は、視覚に障害がある幼児・児童及び生徒に対して、障害を克服し、人間として調和のとれた発達を図り、積極的に社会に参加し貢献することができる人間を育成することを目標とする。</p> <p>そのため、幼児・児童及び生徒の有する感覚を有効に活用し、個人の自主性と個性を尊重して、社会生活における自主的な思考力・判断力並びに積極的な行動力を養い、自主的に社会に参加していくための知識・技能・態度及び習慣を養うことを基本方針とする。</p>		
② 学校経営方針	<p>1) 3つの拠点構想（先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点）に基づき、視覚障害教育を担う附属学校として、専門性の充実・発展、教育実践成果の発信に努める。</p> <p>2) 大学や他附属、関係機関等と連携して特別支援教育を推進する。</p> <p>3) 教科指導、自立活動の指導、生活指導、進路指導等を充実させる。</p> <p>4) 安全で安心して学習・生活のできる環境の整備を図る。</p> <p>5) 保護者や地域住民の協力を得ながら、開かれた学校づくりを目指す。</p>		
③ 重点目標	<p>1. 個々の幼児・児童・生徒の実態や課題に応じた指導体制の整備・充実を図る。</p> <p>2. 早期教育段階における支援の充実を図る。</p> <p>3. 学校、寄宿舎間の連携を密にして、生徒指導に取り組んでいく。</p> <p>4. 校内研修・研究体制の充実を図りながら質の高い専門性を提供する。</p> <p>5. 国際交流教育の推進を図る。</p> <p>6. 教育実習・臨床実習・職場実習等の取り組みの充実を図る。</p> <p>7. 危機管理体制の見直し・徹底を図る。</p>		
④ 前年度の成果と課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学及び特別支援教育連携推進グループを始めとする関係諸機関と連携し、研究協議会、研究会、研修会等を通して視覚障害に関わる教育実践ならびに研究を推進した。</li> <li>・「視覚障害教育ブックレット」を継続的に発行し、教育実践・情報の発信に努めた。</li> <li>・特別支援教諭免許状認定講習における指導法の講座および教員免許状更新講習において、指導法の提供と附属学校間および大学との連携を活かした講習を実施した。</li> <li>・グローバル人材育成を念頭に教育活動を進めるとともに、アジア諸国からの留学生支援や高校生には「トビタテ JAPAN」プログラムで、タイの特別支援教育研修や地元生徒との交流、タイの卒業生を介して地元の視覚特別支援学校を訪問し、生徒と交流を行った。</li> <li>・大学・附属学校連携小委員会を定期的に開催し、障害科学域や学校教育局との連携協力を図るとともに、学生の調査・研究、教育実習、介護等体験に協力した。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システム構築に向けての実践的検討と体制整備</li> <li>・新設された生徒指導係で共有された情報をもとに、SC 等との連携を強化し、より丁寧な児童・生徒対応に取り組む。</li> <li>・学校におけるコンプライアンスを徹底する。</li> <li>・プール・グラウンド等体育関連施設、調理室を改修し、学習・生活環境整備をすすめる。</li> </ul>		

### 3 重点目標達成についての総括的評価

1. 個々の幼児・児童・生徒の実態や課題に応じた指導体制については、他障害附属とも連携し、さらにきめ細かい対応が必要。
2. 早期教育段階における支援の充実については、継続して取り組む必要がある。
3. 学校、寄宿舎間の連携を密にした生徒指導については、各部ごとの体制の見直しを行い、全体を統括する生徒指導係を設置することにした。
4. 校内研修・研究体制の充実を図りながら質の高い専門性の提供が、今後も行えるよう継承する努力が必要。
5. 国際交流教育の推進を図るについては、様々な機会をとらえて実施できた。
6. 教育実習・臨床実習・職場実習等の取り組みの充実は、ある程度図れた。
7. 危機管理体制の徹底を目指し、様々な状況に対応するため、即応する組織を年度途中から設置した。

### 4 来年度の学校課題

インクルーシブ教育システム構築に向けての実践的検討と体制整備（高等教育における障害者支援を通して、フィードバックする点を明確にする）

学校の将来計画をまとめ、持続可能な体制構築に取り組む。

プール・グラウンド等体育関連施設及び調理室等老朽化が目立つ箇所を計画的に改修することにより、学習・生活環境整備をすすめる

学校予算の全般的な見直しを行う。

あらためて学校の安全・安心を見直し、十分な対応を図る。

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

大学、他附属や地域の学校等と連携し、交流の持続可能な形を検討する。

大学からの支援だけでなく、学校内の寄附及び外部資金を増やす努力を継続する。

生徒指導係を設置し、各科の生徒指導状況を把握するとともに、学校全体として生徒指導に取り組む。

学校管理に関わる組織を立ち上げ、様々な問題に即応し解決に努める。

校内のコンプライアンスを徹底するため、定期的に研修を実施する。

施設・設備をチェックし、優先度と費用対効果を考慮しながら更新への工程表を作成する。

### 6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

視覚障害教育ブックレット（年3回）

研究紀要

# 学 校 評 価 （ 自 己 評 価 ） 報 告 書 （ 項 目 別 表 ）

学校名	筑波大学附属視覚特別支援学校
-----	----------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補足的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	それぞれの幼児・児童・生徒の障害・発達・生活等の実態と課題を踏まえ、個別指導や習熟度に応じた指導を行った。また、児童生徒の興味や関心に応じて課題を設定し、成果を上げた。今後は、他の附属学校とも協力しながら、より良い指導を目指したい。
3-1-1	学校の教職員全体として生徒指導に取り組む体制の整備の状況	学校全体にまたがる生徒指導事案に対応するために、総務会の中にコア会議を発足させ対応した。来年度からは、各部での生徒指導をリードするとともに、各担任をフォローするだけでなく学校としての生徒指導の在り方を形成していく生徒指導係を設置することとした。
6-1-1	特別支援学校と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	今年度は附属学校教育局が実施した共同生活事業に小学部2名、高等部3名が参加。それ以外では幼稚部が久里浜特別支援、小学部が坂戸高校、中学部が附属中学、高等部が附属高校、理学療法科は聴覚特別支援、鍼灸科と理学療法科は筑波大学の医学群の学生との交流の機会を持った。それ以外、幼稚部は地元の幼稚園、小学部は副籍制度を利用して交流を行った。
9-3-2	教育相談体制の整備状況、児童生徒・保護者の意見や要望の把握・対応状況	児童生徒および保護者の意見や要望の把握と適切な対応のための教職員の研修を実施した。また、スクールカウンセラーや養護教諭と連携することで、きめ細かい対応をするよう努めた。さらに、きめ細かい対応を行うため、来年度より生徒指導係を設置し、生徒情報を集約した上で、スクールカウンセラーと連携しながら有効な指導につなげていく。
12-1-3	大学、附属学校教育局と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備（耐震化、アスベスト対策を含む）の状況	安全衛生委員会で指摘のあった箇所については、器具を用いての固定を約60箇所並びに耐震固定・連結を約360箇所行い安全管理のための整備を行った。今年度は生徒が使用する頻度が高い箇所を中心に整備したので、来年度はそれ以外の場所についても整備を実施する。また、定期的に制震器具の点検も行い安全性の向上に努める。また、校舎の飲用水の塩素濃度が低いという学校薬剤師の指摘を受け、受水槽の水位を下げる工事を行い、塩素濃度を適切な数値に回復する対応を行った。さらには、校舎内のネズミによる被害に対応するため、ネズミの侵入経路を塞ぐとともに、駆除も行った。
14-1-2	大学との連携・協力	筑波大学集中講座「視覚障害指導法」講師協力（4名）、新潟医療福祉大学「視覚障害関連施設実習」実習生受け入れ（4名）、音楽科の芸大アーツ事業への協力、研究成果発表会（障害学類学生等の卒業論文・修士論文）、調査協力（埼玉大学）、介護等体験、障害科学実践入門（障害科学類1年38名来校）、キャンパス体験、スノーホワイトプロジェクト（視覚障害者化粧支援システム）開発協力

14-1-3	先導的教育研究	全国の視覚特別支援学校における今日的課題に応えられる教育実践を図りながら、「視覚障害教育ブックレット」発行や研究協議会等を通じて教育実践・研究についての情報発信を行った。その他にも、視覚障害教科教育研究会講師協力（2名）、GTECスピーキングテスト実験協力、大学入学共通テストに関わる調査協力（大学入試センター）を行った。
14-1-4	教員養成・教師教育	大学、教員養成施設と連携しながら、質の高い教育実習を教員養成に取り組んだ。それ以外に免許更新講習B講座、C講座、D講座合わせて本校で7講座開講、免許法認定公開講座講師協力を行った。
14-1-5	国際交流・国際貢献	平成30年度は、ダスキンアジア太平洋研修生研修協力（5/7～11）、オハイオ州立大学見学（7/18）、パキスタン視覚障害者協会見学（9/18）、ハンブルグ大学見学（10/3）、ミャンマー社会福祉大臣他見学（10/26）、台北市啓明学校見学（11/26）、トビタテ留学JAPAN（タイ留学1/4～23）、トビタテ留学JAPAN成果発表会（2/3）、ハンブルグ大学見学（3/26）があり、国際交流を図るとともに国際貢献に協力した。
14-1-6	社会貢献	鍼灸科併設治療室（患者数約2,000人）、育児学級ミニ講座（年3回のべ55名参加）、0～2歳児対象育児学級（年29回のべ406人参加）、目白台交流館での音楽科コンサート、高齢者健康教室、遮熱性塗装の調査（国土交通省）協力、ガムラン体験会協力（秋津療育園）、寄宿舎卒後支援講習会を通して地域に貢献をした。